

## 傷が付き難い越前焼業務用平皿

越前焼工業協同組合（越前町）

平成 24～25 年度 地域資源活用共同研究事業

問合せ先 笹原一起、セラミックス・工芸研究 G



県内の飲食店で使われている平皿

### 背景と経緯

越前焼工業協同組合では、福井県工業技術センターと共同開発した高強度素地を活用した業務用製品（蕎麦鉢やラーメン鉢）を販売して実績を上げていますが、洋食業界からの要望が多い業務用平皿への対応が進んでいませんでした。その理由としては、越前焼は既存の磁器製洋食器と比べ重いこと、変形しやすいこと、また表面に傷が付きやすいことなどの問題があったためです。

そこで、組合では福井県工業技術センターと共同で洋食器に適した平皿の成形方法や焼成方法を検討しました。また、既存の透明釉の組成を検討することで傷が付き難い釉薬の開発に取り組みました。

### 成果と製品化の状況

成形した平皿を焼成すると縁が自重で下がり、逆に底の部分が持ち上がってしまいます。この変形を抑えるため、縁の立ち上がりを大きくし底の部分に傾斜をつけるなどの改良を行うことで、歪みの起こり難い平皿の成形技術を確立しました。

また、釉薬の中には気泡が多数存在し、この気泡が表面近くに残ると表面が凹凸になり、ナイフ傷が付く原因となってしまいます。そこで、釉薬の原料と配合量を検討し釉薬の粘性を制御することで、気泡サイズを小さくしたり気泡量を減らしたりして、表面凹凸を小さくしました。

組合ではこの新しい製品を PRしながら、洋食業界への販路拡大を図っています。



種々の大きさの業務用平皿



開発した 4 種類の釉薬を施した平皿